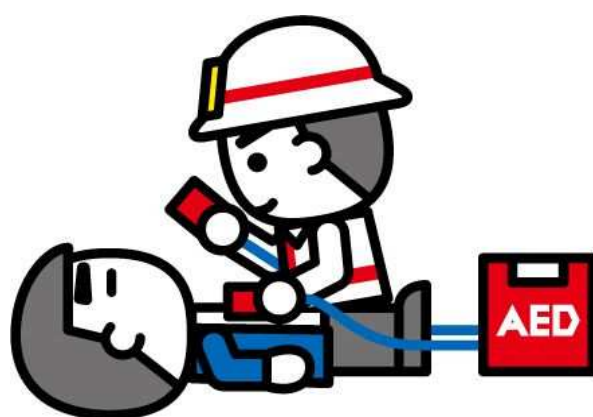


# III 救急・救助



余 白

# 第 1 救急活動の概況

## 1 救急業務実施体制

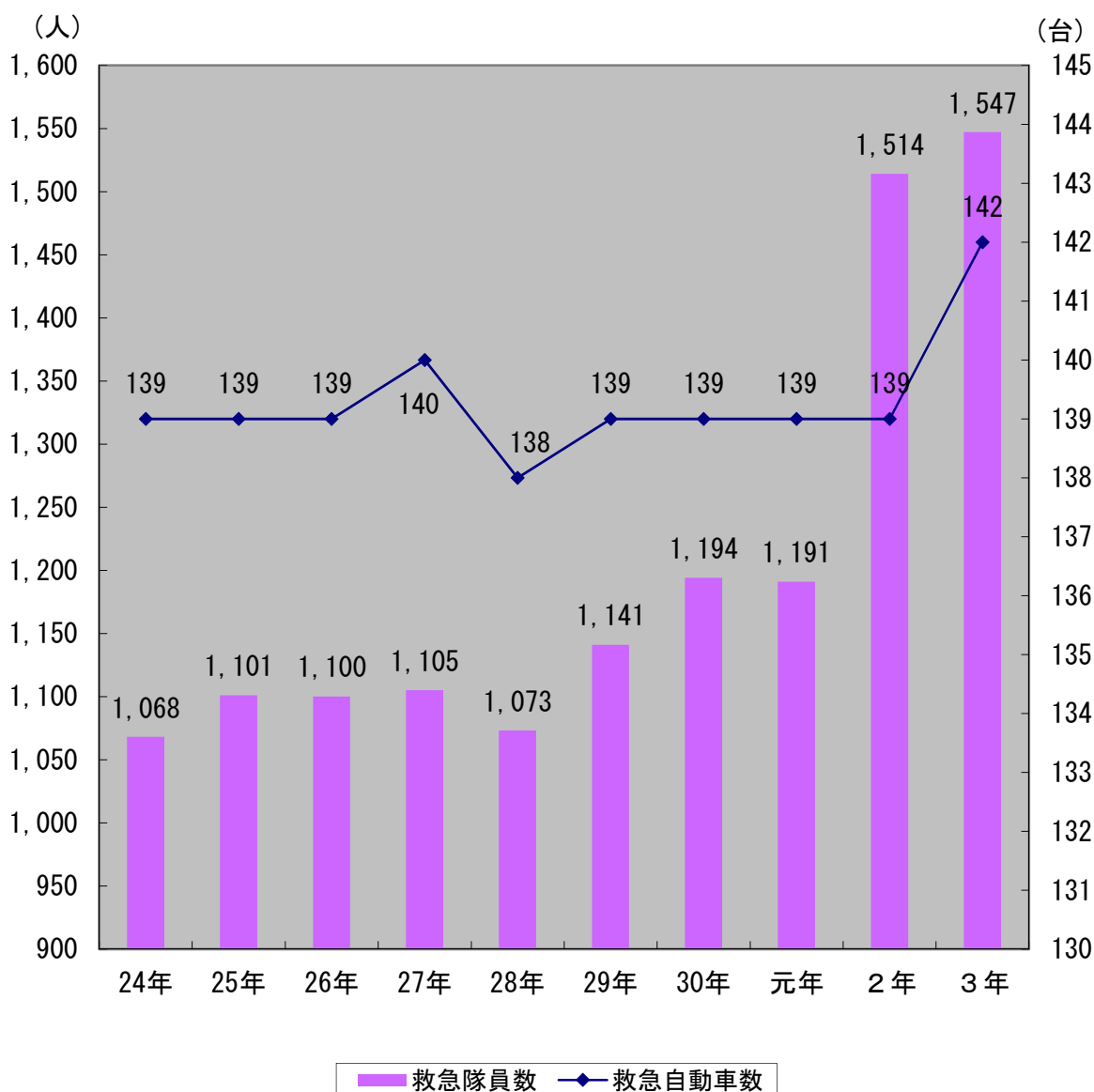
令和3年4月1日において救急業務を実施している市町村は41市町村で、県人口99.9%がカバーされている。

救急自動車の保有台数は142台、救急隊員は1,547人（専任314人、兼任1,233人）で、前年に比べ救急隊員は33人増加している。また、救急告示医療機関は101機関、その他医療機関は1,334機関となっている。

平成3年8月にプレホスピタル・ケア充実の一環として、救急隊員の行う応急処置の範囲が拡大されるとともに、高度な応急処置を行うための新たな国家資格制度として救急救命士制度が導入され、救命率の向上を目指した救急業務の高度化が推進されている。

令和3年4月1日現在、県内全消防本部で救急救命士を運用（一部運用を含む）しており、資格者合計761名のうち582名が救急業務に従事している。

図 1 過去10年間の救急自動車及び救急隊員数の推移（各年4月1日現在）



## 2 救急業務実施状況

### (1) 概要

令和2年中における救急出動件数は79,479件、搬送人員は71,999人で、いずれも過去最多となった。

また、昨年と比べると救急出動件数は6,768件(7.8%)の減少、搬送人員は6,089人(7.8%)の減少となっている。

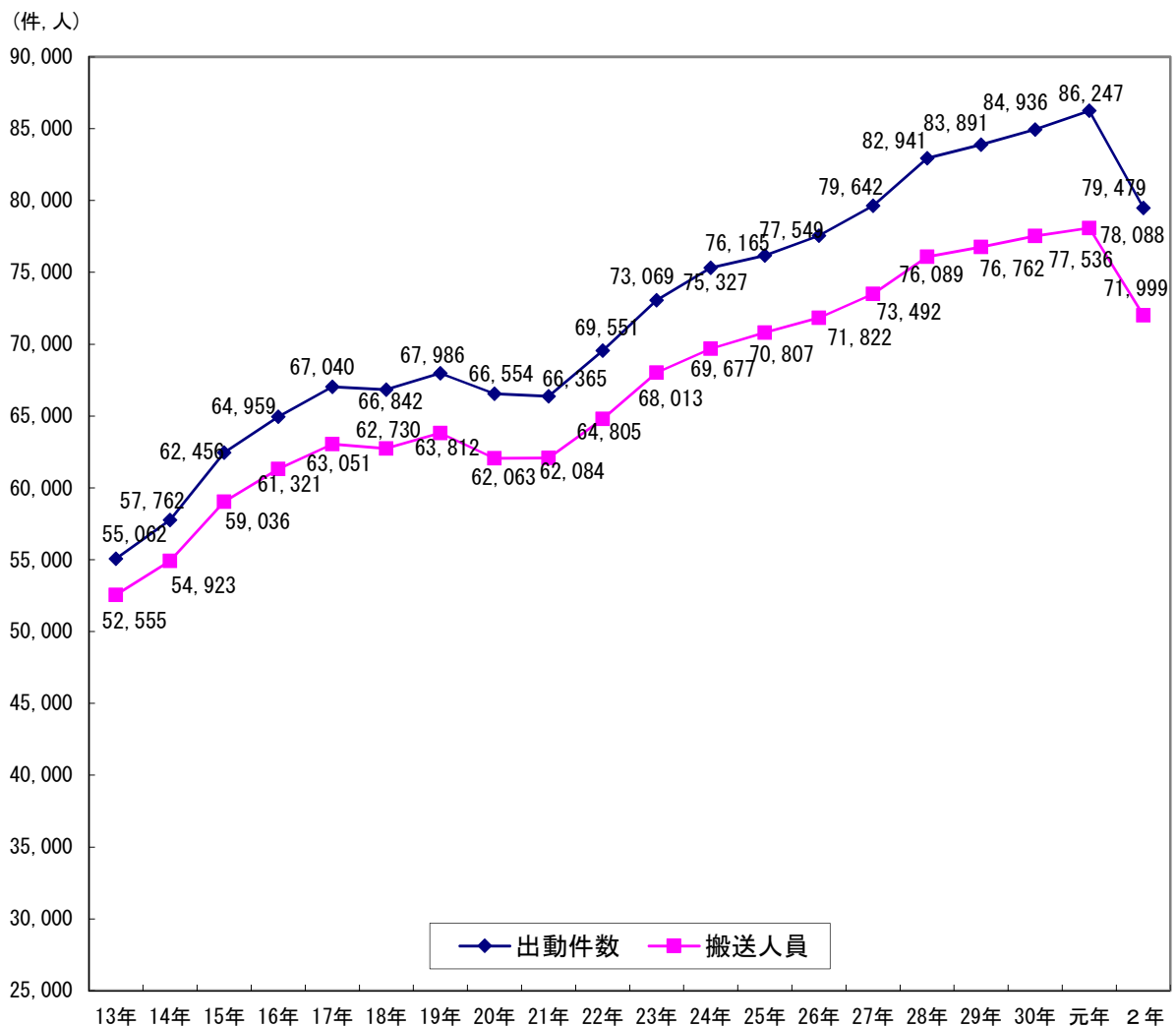
これは、1日平均217.8件(前年236.3件)、約6.6分に1回の割合で救急隊が出動し、また1日平均197.3人(前年213.9人)、約7.3分に1人の割合で搬送されていることとなる。

事故種別救急出動件数は、前年と同じく1位が急病で47,639件(全体の59.9%)、次いで、その他13,175件(同16.6%)、一般負傷が11,624件(同14.6%)となっている。

なお、搬送人員については、1位が急病で42,856人(全体の59.5%)、次いで、その他が14,039人(同19.5%)、一般負傷が10,749人(同14.9%)となり、上位3位までで全体の約94.0%を占めている。

過去20年間の県内救急活動の推移は下図のとおりであり、これまで増加の一途をたどっていた搬送人員・出動件数は、平成17年からほぼ横ばい、平成22年から再び増加に転じたが、令和2年については減少している。

図2 過去20年間の救急出動件数、搬送人員の推移



(2) 事故種別，傷病程度別及び年齢区分別搬送人員の状況

表 1 事故種別出動件数及び搬送人員の状況

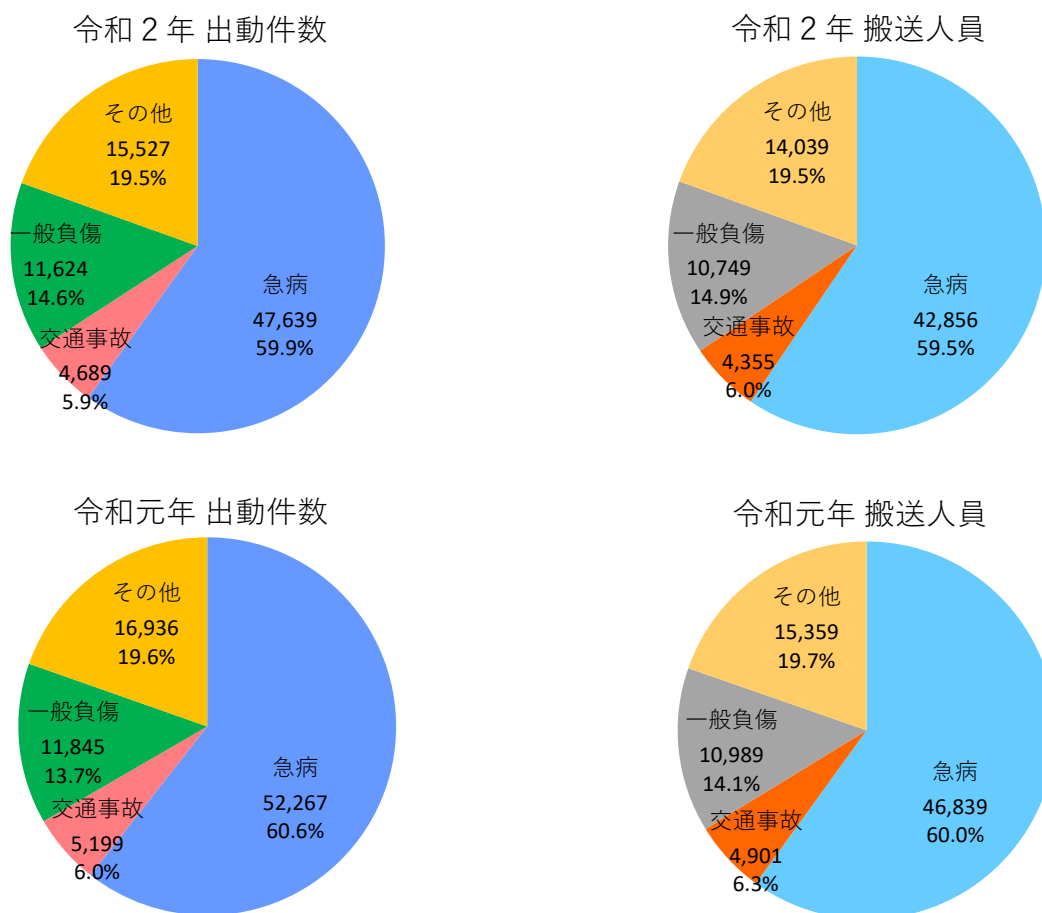
(単位：件，人，%)

区分		計		急病		交通事故		一般負傷		その他	
		計	構成比	急病	構成比	交通事故	構成比	一般負傷	構成比	その他	構成比
令和2年	出動件数	79,479	100.0	47,639	59.9	4,689	5.9	11,624	14.6	15,527	19.5
	搬送人員	71,999	100.0	42,856	59.5	4,355	6.0	10,749	14.9	14,039	19.5
令和元年	出動件数	86,247	100.0	52,267	60.6	5,199	6.0	11,845	13.7	16,936	19.6
	搬送人員	78,088	100.0	46,839	60.0	4,901	6.3	10,989	14.1	15,359	19.7
増減	出動件数	△ 6,768	—	△ 4,628	—	△ 510	—	△ 221	—	△ 1,409	—
	搬送人員	△ 6,089	—	△ 3,983	—	△ 546	—	△ 240	—	△ 1,320	—

(注) その他は、火災・自然災害・水難・労働災害・運動競技・加害・自損行為・その他(転院搬送・医師搬送・資機材等搬送・その他)を示す。

図 3

(単位：件，人，%)



ア 年齢別搬送人員

搬送人員の年齢別事故種別をみると、高齢者、成人、乳幼児では、急病が半数を超える高い率を占めており、少年では他の年齢に比べ、交通事故が比較的高い比率を占めている。

表2 年齢別搬送人員の状況

(単位：人，%)

区分	計		急病		交通事故		一般負傷		その他	
	計	構成比	急病	構成比	交通事故	構成比	一般負傷	構成比	その他	構成比
新生児	114	100.0	14	12.3	0	0.0	2	1.8	98	86.0
乳幼児	1,927	100.0	1190	61.8	90	4.7	467	24.2	180	9.3
少年	2,022	100.0	940	46.5	363	18.0	264	13.1	455	22.5
成人	19,954	100.0	11,708	58.7	2,444	12.2	1,747	8.8	4,055	20.3
高齢者	47,982	100.0	29,004	60.4	1,458	3.0	8,269	17.2	9,251	19.3
合計	71,999	100.0	42,856	59.5	4,355	6.0	10,749	14.9	14,039	19.5

(注) 新生児：生後28日未満の者

乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者

少年：満7歳以上満18歳未満の者

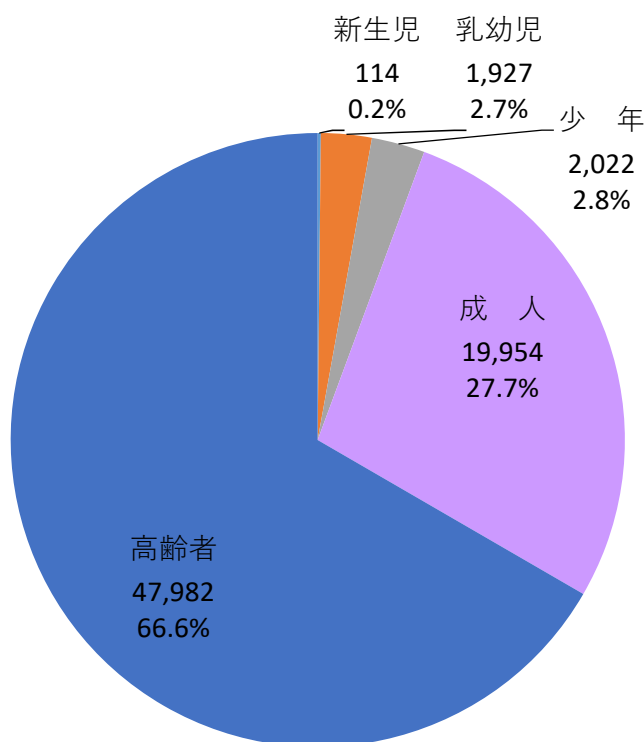
成人：満18歳以上満65歳未満の者

高齢者：満65歳以上の者

(注) その他は、火災・自然災害・水難・労働災害・運動競技・加害・自損行為・その他（転院搬送・医師搬送・資機材等搬送・その他）を示す。

(注) 構成比：搬送理由/年齢区分別搬送人員

図4



イ 傷病程度別搬送人員

令和2年中における搬送人員は71,999人であるが、これを傷病程度別にみると、軽症、中等症の両者で全体の88.0%を占めている。

表3 傷病程度別搬送人員の状況（事故種別）

（単位：人，％）

区分	合計		死亡	構成比	重症		中等症		軽症		その他	
	合計	構成比			重症	構成比	中等症	構成比	軽症	構成比	その他	構成比
火災	54	100.0			8	14.8	29	53.7	17	31.5		
自然災害	11	100.0	1	9.1	2	18.2	5	45.5	3	27.3		
水難	47	100.0	12	25.5	8	17.0	10	21.3	17	36.2		
交通事故	4,355	100.0	22	0.5	251	5.8	1,364	31.3	2,718	62.4		
労働災害	718	100.0	6	0.8	105	14.6	347	48.3	260	36.2		
運動競技	363	100.0			7	1.9	123	33.9	233	64.2		
一般負傷	10,749	100.0	50	0.5	1,120	10.4	5,403	50.3	4,176	38.9		
加害	183	100.0			3	1.6	54	29.5	126	68.9		
自損行為	500	100.0	50	10.0	69	13.8	236	47.2	145	29.0		
急病	42,856	100.0	673	1.6	3,782	8.8	23,751	55.4	14,647	34.2	3	0.0
その他	12,163	100.0	19	0.2	2,452	20.2	9,393	77.2	269	2.2	30	0.2
計	71,999	100.0	833	1.2	7,807	10.8	40,715	56.5	22,611	31.4	33	0.05

- ※ 死亡：初診時において、死亡が確認されたもの
- 重症：傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
- 中等症：傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの
- 軽症：傷病の程度が入院を必要としないもの
- その他：医師の診断がないもの及び「その他の場所」へ搬送したもの
- ※ 構成比：傷病程度人数/区分合計

また、年齢別にみると、新生児、成人、高齢者の場合は中等症の割合が高いのに対し、乳幼児、少年の場合は、軽症の割合が高くなっている。

表 4 傷病程度別搬送人員の状況（年齢別区分）

（単位：人，％）

区分	合計		死亡	構成比	重症		中等症		軽症		その他	
	合計	構成比			重症	構成比	中等症	構成比	軽症	構成比	その他	構成比
新生児	114	100.0			23	20.2	83	72.8	6	5.3	2	1.75
乳幼児	1,927	100.0	6	0.3	44	2.3	585	30.4	1,291	67.0	1	0.05
少年	2,022	100.0	2	0.1	59	2.9	693	34.3	1,268	62.7		
成人	19,954	100.0	129	0.6	1,519	7.6	9,549	47.9	8,744	43.8	13	0.07
高齢者	47,982	100.0	696	1.5	6,162	12.8	29,805	62.1	11,302	23.6	17	0.04
計	71,999	100.0	833	1.2	7,807	10.8	40,715	56.5	22,611	31.4	33	0.05



(3) 現場到着所要時間及び収容所要時間の状況

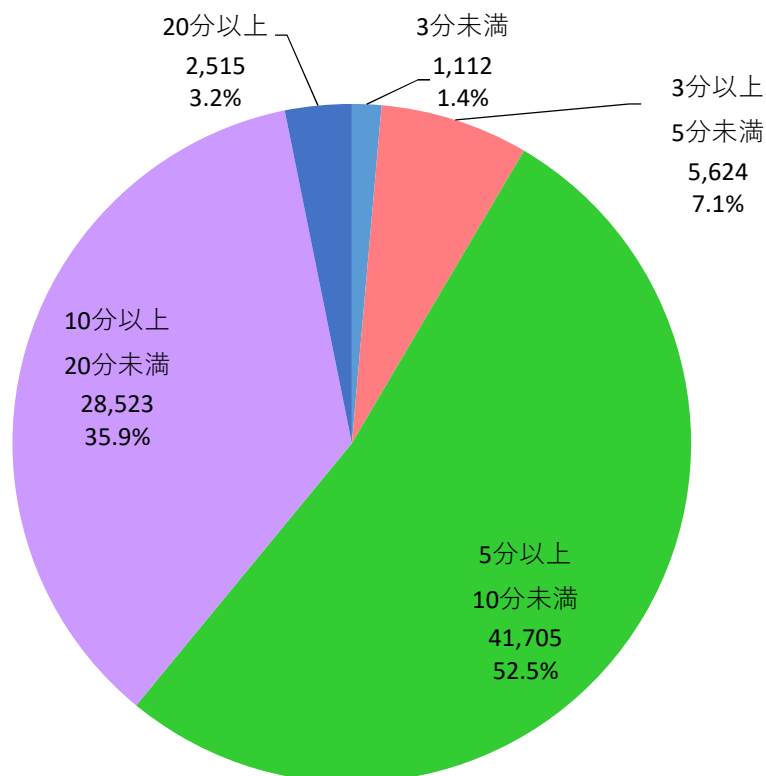
令和2年中の救急出動件数79,479件について現場到着所要時間別（救急事故の覚知から現場に到着するまでに要した時間別）の状況を示したものが下表である。

これによると最も多いのは、5分以上～10分未満の41,705件で全体の52.5%を占めている。

表5 現場到着時間別出動件数

区分	計	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上	現場到着平均 所要時間	
							県	全国
急病	47,639	541	2,377	24,481	18,693	1,547	9.7分	—
交通事故	4,689	58	254	2,377	1,746	254	10.0分	—
一般負傷	11,624	139	644	6,089	4,378	374	9.6分	—
その他	15,527	374	2,349	8,758	3,706	340	8.0分	—
計	79,479	1,112	5,624	41,705	28,523	2,515	9.3分	8.9分
構成比	100.0%	1.4%	7.1%	52.5%	35.9%	3.2%	—	—

図5



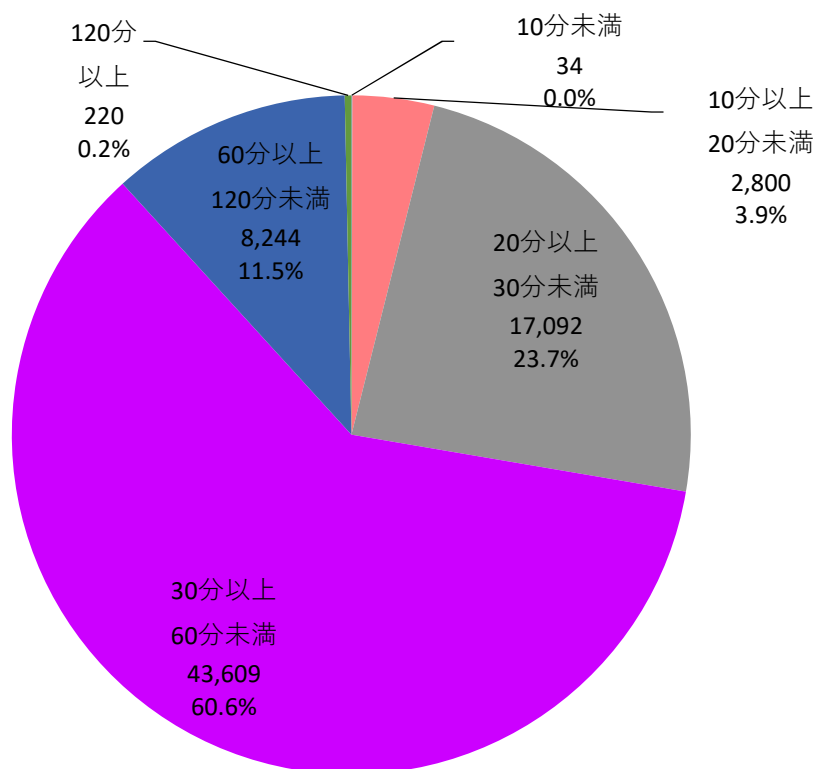
令和2年中の搬送人員71,999人について、収容所要時間別（救急事故の覚知から医療機関に収容するまでに要した時間別）の状況を示したものが下表である。

これによると搬送人員のうち52,073人（72.3%）が収容に30分以上要している。

表6 収容所要時間搬送人員

区分	計	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分 以上	収容平均 所要時間	
								県	全国
急病	42,856	16	1,180	9,838	27,355	4,366	101	40.1分	—
交通事故	4,355	3	72	837	2,881	543	19	42.5分	—
一般負傷	10,749		246	2,324	6,993	1,155	31	41.1分	—
その他	14,039	15	1,302	4,093	6,380	2,180	69	40.4分	—
計	71,999	34	2,800	17,092	43,609	8,244	220	40.4分	40.6分
構成比	100.0%	0.0%	3.9%	23.7%	60.6%	11.5%	0.3%	—	—

図6



- (4) 事故種別転送回数別搬送人員の状況  
搬送人員71,999人のうち99.5%は、転送なしで収容されており、  
そのうち、転送回数1回の者が転送者全体の99.4%を占めている。

表7 転送回数別搬送人員の状況

区分	計	急病	交通事故	一般負傷	その他	
転送なし	71,657	42,664	4,325	10,670	13,998	
転送	1回	340	191	30	78	41
	2回	2	1		1	
	3回					
	4回					
	5回以上					
	小計 (A)	342	192	30	79	41
計 (B)	71,999	42,856	4,355	10,749	14,039	
転送率 (A)/(B) × 100	0.5	0.4	0.7	0.7	0.3	

転送理由についてみると、救急告示医療機関、非告示医療機関ともに処置困難が多く、次いで専門外の順になっている。

表8 医療機関転送理由の状況

(単位：件，%)

区分		合計	ベッド 満床	専門外	医師不在	手術中	処置困難	理由不明	その他
救急告示	構成比	100.0		23.1		0.7	61.9	1.4	12.9
		147		34		1	91	2	19
非告示	構成比	100.0	0.6	24.0			66.3		9.1
		175	1	42			116		16
計	構成比	100.0	0.3	23.6		0.3	64.3	0.6	10.9
		322	1	76		1	207	2	35

(5) 救急隊員の行った応急処置の状況

令和2年中に転送された人員のうち、救急隊員によって応急処置された人の事故種別、処置項目状況をみると、急病においては、血中酸素飽和度の測定が最も多く、次いで血圧測定が多い。

また、交通事故、一般負傷においても、血中酸素飽和度の測定、血圧測定の順で処置が多くなっている。

表9 救急隊員の行った応急処置の状況

(単位:人)

処置項目	事故種別	計	急病	交通事故	一般負傷	その他
	応急処置対象搬送人員					
		71,625	42,821	4,343	10,736	13,725
止	血	1,713	206	218	1,066	223
固	定	5,387	272	2,641	1,900	574
人 工 呼 吸		309	220	5	21	63
心 マ ッ サ ー ジ		132	109	1	12	10
心 肺 蘇 生		1,534	1,235	39	113	147
酸 素 吸 入		14,045	9,000	418	677	3,950
気 道 確 保		2,314	1,827	54	182	251
(再掲)気道確保のうち気管挿管		246	190	4	34	18
保 温		6,443	4,058	310	924	1,151
被 覆		3,623	197	806	2,204	416
在 宅 療 法 継 続		259	221	1	18	19
ショックパンツによる血圧保持						
除 細 動		176	149	3	8	16
薬 剤 投 与		310	256	10	23	21
血 圧 測 定		68,554	40,824	4,250	10,363	13,117
聴診器による心音・呼吸音等の聴取		22,923	15,876	1,772	2,439	2,836
血 中 酸 素 飽 和 度 の 測 定		69,957	41,641	4,290	10,567	13,459
心 電 図		44,812	30,927	1,931	4,852	7,102
静 脈 路 確 保 ( CPA 前 )		298	223	25	23	27
静 脈 路 確 保 ( CPA 後 )		559	464	16	44	35
血 糖 測 定		1,387	1,295	21	38	33
ブ ド ウ 糖 投 与		108	107	1		
そ の 他 の 応 急 処 置		44,793	27,529	2,693	6,740	7,831
計(再掲の気管挿管を除く)		289,636	176,636	19,505	42,214	51,281

(注) 一人につき複数の応急処置を行うこともあるため、応急処置対象搬送人員と事故種別ごとの処置項目の計の数は一致しない。

(6) 高速道路における救急業務の状況

高速自動車国道における救急業務実施体制は、令和3年4月1日現在、九州縦貫自動車道のうち鹿児島インターチェンジから宮崎インターチェンジ間、えびのインターチェンジから人吉インターチェンジ間を沿線3市1組合で、相互応援協定を締結し、上下線方式により、第1次出場をインターチェンジ所在の常備消防が担当する体制を整えている。

東九州自動車道31.7kmは沿線1市1組合が担当している。

県内においては、上り線が鹿児島インターチェンジから宮崎県えびのインターチェンジまでの69.8kmについて、第1次出場を担当し、救急業務を行っている。

なお、令和2年中の本県における救急活動は、下表のとおりである。

高速自動車道における救急活動状況

表10 九州自動車道

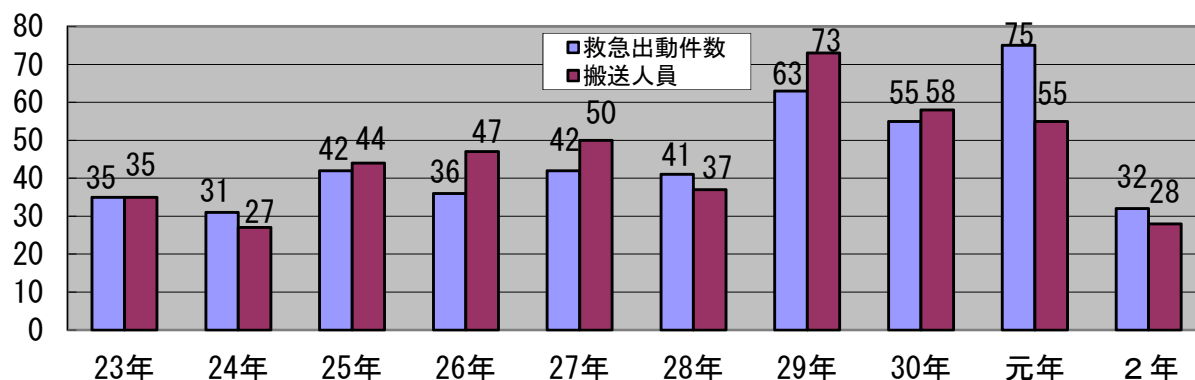
区分	インターチェンジ名 (IC)	救急出動件数	搬送人員	救急告示医療機関数	高速道路における救急活動開始年月日
鹿児島市消防局	鹿児島	2	1	24	昭和63.3.29
	鹿児島北	3	2	11	昭和52.11.15
	薩摩吉田	1	2		昭和48.12.13
始良市消防本部	始良	3	2	1	昭和48.12.13
	加治木	8	9	3	昭和48.12.13
霧島市消防局	溝辺鹿児島空港	3	4	2	平成17.11.7
	横川	4	4		平成17.11.7
伊佐湧水消防組合	栗野			3	昭和55.3.22
計	8 IC	24	24	44	

(注) 医療機関は、インターチェンジから半径5キロメートルの範囲にあるものである。

表11 東九州自動車道

区分	インターチェンジ名 (IC)	救急出動件数	搬送人員	救急告示医療機関数	高速道路における救急活動開始年月日
霧島市消防局	国分	3	2		平成14.3.2
	隼人東	2	1	3	平成12.3.4
大隅曾於地区消防組合	末吉財部	3	1		平成14.5.9
計	3 IC	8	4	3	

図7 最近10年間の高速自動車道における救急出動件数及び搬送人員



### 3 プレホスピタル・ケアの充実

プレホスピタル・ケア（救急現場及び搬送途上における応急処置）の一層の充実を図るために、平成3年8月に「救急隊員の行う応急処置等の基準」が改正され、これに伴い消防学校における新たな教育訓練（救急標準課程（平成16年4月1日より救急科に改称）及び救急Ⅱ課程）の修了者は、従来の応急処置に加えて9項目の処置を行うものとされ、救急救命士資格者は、医師の指示の下にさらに高度な応急処置（特定3項目）をも行うものとされた。

これに伴い、消防学校における救急科（救急標準課程）の修了者が計画的に養成されるとともに、救急救命士についても県内全消防本部において運用され、資格者、高規格救急自動車のいずれも着実に増加している。

また、救急救命士の質の向上による救命効果を高めるため、平成15年2月に消防機関、救急医療機関、医師会などにより構成される鹿児島県救急業務高度化協議会を、同年3月に6地域（薩摩、北薩、始良伊佐、大隅、熊毛、大島）に地域救急業務高度化協議会を設置し、平成15年4月から包括的除細動を実施し、平成16年7月から認められた医師の具体的指示下での気管挿管についても救急業務高度化協議会で承認された病院で、体制の整った消防本部から順次病院実習を実施し、396名が認定を受け19消防本部で実施が可能となっている。

平成18年4月から認められた医師の具体的指示下での薬剤投与について594名が認定・登録を受け、平成26年4月には「心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液、血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与」の実施が追加され、578名が認定・登録を受け、20消防本部で実施が可能となっている。

さらに、救急現場近くの一般市民による応急手当を促進するため、令和2年12月末までに応急手当指導員2,720名、応急手当普及員798名が県内消防本部により養成され、住民に対する応急手当講習会が次のとおり実施されている。

なお、平成16年12月に応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱の一部改正により、非医療従事者による自動体外式除細動器（AED）の使用が可能となったことから、AEDの内容を含めた救命講習の実施率が高くなっている。

#### 令和2年中の住民に対する応急手当講習会実施状況

普通救命講習	414回	6,929名受講
上級救命講習	24回	237名受講
救急入門コース	66回	1,516名受講
その他の講習	590回	12,233名受講
計	1,094回	20,915名受講

表12 救急業務高度化の推進状況

各年4月1日現在

区分	令和3年	令和2年	対前年比較	
			増減数	増減率
救急救命士運用消防本部数	20	20		1.00
救急隊員数①	1,181	1,189	△ 8	0.99
うち救急救命士有資格者② (②/①:%)	609 (51.6%)	576 (48.4%)	33	1.06
(②のうち気管挿管認定者)	380	397	△ 17	0.96
(②のうち薬剤投与認定者)	573	568	5	1.01
(②のうち処置拡大認定者)	562	424	138	1.33
うち救急科（救急標準課程）・ (③/①:%)	536 (45.4%)	513 (43.1%)	23	1.04
救急自動車数④	142	139	3	1.02
うち高規格車⑤ (⑤/④:%)	134 (94.4%)	124 (89.2%)	10	1.08
救急隊数⑥	118	114	4	1.04
うち救急救命士運用隊⑦ (⑦/⑥:%)	116 (98.3%)	114 (100.0%)	2	1.02

※1 救急隊員として専任又は兼任の辞令を受けている救急救命士資格者数は609名、専任及び兼任の者が休日等の時、代替として救急業務に従事する資格者が30名、救急自動車に搭乗しない資格者が122名で、有資格者は計761名いる。

表13 救急業務実施体制等の状況（消防本部設置市町村）

区分 消防本部別	人口 (人) R2年 国調	面積 (km <sup>2</sup> )	救 急 体 制											
			救急車総数 (台)			救急 隊数	救急 救命 士運 用隊 数 ※2	救急隊員数 (人)						
			うち 高 規 格	うち 予 備 車	計			うち資格者・修了者				専任	兼任	
								救急 救命 士	標 準 課 程	救急 I 課 程	救急 II 課 程			
鹿児島市消防局	593,128	547.61	23	23	5	18	18	124	71	51		2	80	44
枕崎市消防本部	20,033	74.78	3	2	1	2	2	33	13	19		1		33
出水市消防本部	51,994	329.98	4	4		4	3	16	15	1			16	
垂水市消防本部	13,554	162.12	3	3	1	2	2	36	13	20		3		36
薩摩川内市消防局	92,403	682.92	9	8	1	7	7	45	31	14			16	29
日置市消防本部	47,153	253.01	4	4	1	3	3	44	23	21			20	24
霧島市消防局	123,135	603.17	8	8		8	8	46	44	2			44	2
いちき串木野市消防本部	27,490	112.3	3	3	1	2	2	26	12	12		2		26
南さつま市消防本部	32,887	283.59	5	5		5	5	69	24	44		1	24	45
始良市消防本部	76,348	231.25	5	5	1	4	4	41	33	8			41	
さつま町消防本部	22,400	303.9	3	3	1	2	2	29	12	17			8	21
指宿南九州消防組合	72,091	506.72	8	7		8	8	122	46	73		3		122
阿久根地区消防組合	28,975	250.5	6	5	2	4	4	49	22	23		4		49
伊佐湧水消防組合	33,591	536.85	6	6	1	5	5	67	28	35		4		67
大隅曾於地区消防組合	78,257	781.03	9	9	2	7	7	46	38	8			28	18
大隅肝属地区消防組合	134,985	1160.79	12	12	2	10	10	82	38	44			30	52
沖永良部与論地区 広域事務組合	18,182	114.27	4	3	2	2	2	36	21	14		1		36
徳之島地区消防組合	23,497	248.03	4	3	1	6	6	49	20	29				49
熊毛地区消防組合	39,550	993.03	10	9	4	6	6	90	42	35		13		90
大島地区消防組合	65,367	877.95	13	12	1	13	12	131	63	66		2	7	124
計	1,595,020	95,970.85	142	134	27	118	116	1,181	※1 609	536		36	314	867

※1 救急隊員として専任又は兼任の辞令を受けている救急救命士資格者数は609名、専任及び兼任の者が休日等の時、代替として救急業務に従事する資格者が30名、救急自動車に搭乗しない資格者が122名で、有資格者は計761名いる。

※2 救急救命士運用隊数は、一部運用も含む。



[現場到着平均所要時間及び収容平均所要時間は令和2年中、左記以外は令和3年4月1日現在]

医 療 機 関 数												人口10万人当たりの救急医療機関数	現場到着平均所要時間(分)	収容平均所要時間(分)
合計	救急告示医療機関					その他の医療機関								
	国公立	公的	私 的		計	国公立	公的	私 的		計				
病 院			診 療 所	病 院				診 療 所						
637	3	3	26	3	35	13	4	55	530	602	5.9	9.5	35.1	
19	1		3		4			4	11	15	20.0	4.8	32.7	
40	1				1	2		4	33	39	1.9	8.2	36.7	
7	1				1				6	6	7.4	7.8	45.5	
82		1	6		7	5		6	64	75	7.6	9.1	39.5	
39			2		2			7	30	37	4.2	8.9	41.8	
91	1		6		7			7	77	84	5.7	9.4	45.7	
28								6	22	28		7.2	38.0	
32	2		1		3	3		4	22	29	9.1	9.2	45.1	
66			4		4	3		5	54	62	5.2	8.4	41.5	
19			1		1			3	15	18	4.5	9.8	51.1	
66	1		3	1	5			11	50	61	6.9	10.6	45.9	
20			2		2	4		1	13	18	6.9	9.1	43.7	
28	1		2		3			4	21	25	8.9	9.1	46.3	
44			1	2	3			8	33	41	3.8	9.8	52.9	
107	2		6	2	10	12		9	76	97	7.4	9.7	42.3	
8			2		2				6	6	11.0	8.6	33.1	
8			2	1	3			1	4	5	12.8	9.5	43.6	
20	1		2		3	4		1	12	17	7.6	9.5	43.2	
74	1		4		5	12	1	4	52	69	7.6	10.2	40.7	
1,435	15	4	73	9	101	58	5	140	1,131	1,334	6.3	9.3	40.4	

表14 消防本部救急出動件数及び搬送人員

区分		事故種別救急出動件										
		計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病
消防本部名												
鹿児島市消防局		29,103	86	4	17	1,617	226	135	4,235	112	302	18,617
枕崎市消防本部		1,140			3	61	9	4	145	1	3	621
出水市消防本部		2,069	2		3	167	13	10	286	8	15	1,282
垂水市消防本部		981	1			55	7	9	154		3	565
薩摩川内市消防局		4,114	18	3	4	236	38	20	577	7	31	2,277
日置市消防本部		2,126	3		1	117	20	20	291	2	16	1,157
霧島市消防本部		5,711	11	1	6	441	60	30	848	12	66	3,235
いちき串木野市消防本部		1,228			6	66	11	8	167	2	11	627
南さつま市消防本部		1,816	1	2	4	105	10	13	283	2	14	986
始良市消防本部		3,445	2		3	219	43	17	491	11	25	2,059
さつま町消防本部		1,056	3		2	64	13	5	133	2	11	593
指宿南九州消防組合		3,909	1	4	7	233	66	16	581	6	29	1,961
阿久根地区消防組合		1,871		1	7	87	14	3	276	4	8	1,077
伊佐湧水消防組合		1,849	2		1	96	12	5	282	2	16	1,006
大隅曾於地区消防組合		4,083	3	2	4	298	85	15	550	7	52	2,462
大隅肝属地区消防組合		6,641	9	2	4	483	75	37	927	23	61	3,944
沖永良部与論地区 広域事務組合		855	1		1	39	4	4	147	2	12	525
徳之島地区消防組合		1,437	2	1	1	49	15	8	225	4	11	911
熊毛地区消防組合		2,065	6		6	74	19	4	387	3	15	1,302
大島地区消防組合		3,980	1	1	11	182	19	9	639	20	26	2,432
計		79,479	152	21	91	4,689	759	372	11,624	230	727	47,639
時間別	0~2	3,359	8	1		75	8		483	34	47	2,405
	2~4	2,550	6		2	47	4		280	24	31	1,945
	4~6	2,621	6	2	3	71	8		339	14	26	1,981
	6~8	5,161	6	4	4	452	33	2	801	4	55	3,551
	8~10	9,851	8	4	13	620	139	21	1,611	6	62	5,595
	10~12	10,886	25	4	13	583	160	90	1,540	10	68	5,637
	12~14	9,578	13	1	8	590	131	87	1,331	13	78	4,927
	14~16	8,756	25	2	11	606	143	67	1,299	20	59	4,677
	16~18	8,583	21	1	18	697	92	53	1,374	14	80	4,602
	18~20	7,622	15	1	8	584	26	33	1,127	26	84	4,879
	20~22	6,065	10		6	223	8	17	828	31	79	4,254
22~24	4,447	9	1	5	141	7	2	611	34	58	3,186	

数				事故種別搬送人員												
その他				計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	
転院搬送	医師搬送	資機材等送	その他													
3,205			547	25,505	14	4	6	1,495	199	129	3,892	92	224	16,264	3,186	
282	4		7	1,101			1	65	8	4	142	1	3	597	280	
262	7		14	1,913	2		1	147	9	10	270	7	13	1,191	263	
185	1		1	956				59	7	10	150			545	185	
855	7		41	3,700	2			216	35	20	528	6	16	2,062	815	
499				2,029	2		1	112	19	20	285	2	10	1,081	497	
967	18		16	5,292	6		3	405	60	30	794	10	47	2,978	959	
330				1,151			3	64	11	7	152	1	8	575	330	
388	3		5	1,717	1	1	2	101	11	13	265	2	6	927	388	
573			2	3,250	1		3	211	43	17	456	8	16	1,922	573	
224	4	2		978	3		3	61	13	4	125	2	9	534	224	
997	5		3	3,712	1	4	4	228	64	16	556	5	20	1,818	996	
387	1		6	1,806		1	6	90	13	3	268	1	5	1,032	387	
423			4	1,763	2		1	87	13	5	268	2	14	947	424	
601	1		3	3,777	3		2	242	84	15	526	7	32	2,266	600	
1,048	2		26	6,197	6		3	465	72	36	867	15	37	3,648	1,048	
110			10	808	1		1	36	4	4	143	2	7	500	110	
102			108	1,327	3	1		50	15	8	219	4	9	912	106	
222	21		6	1,942	6		3	88	20	4	372	2	9	1,218	220	
583	11		46	3,075	1		4	133	18	8	471	14	15	1,839	572	
12,243	85	2	845	71,999	54	11	47	4,355	718	363	10,749	183	500	42,856	12,163	
211	1		86	2,973	4			65	8		429	31	42	2,186	208	
152			59	2,292	1		2	42	4		250	21	24	1,799	149	
116			55	2,388	3	2	2	68	8		313	12	21	1,842	117	
189			60	4,719	3	1	2	427	33	2	756	2	31	3,278	184	
1,701	11	1	59	9,063	4	1	4	570	130	20	1,539	5	35	5,069	1,686	
2,659	23	1	73	9,905	11	2	5	523	149	88	1,447	8	43	4,988	2,641	
2,307	15		77	8,790		1	2	559	122	85	1,256	9	58	4,407	2,291	
1,744	25		78	7,914	6	1	8	573	139	66	1,203	14	37	4,129	1,738	
1,552	9		70	7,791	7	1	13	659	87	51	1,261	12	51	4,103	1,546	
752			87	6,824	8	1	5	535	23	32	1,028	22	59	4,363	748	
537			72	5,360	4			207	8	17	723	19	56	3,792	534	
323	1		69	3,980	3	1	4	127	7	2	544	28	43	2,900	321	

表15 曜日別月別救急出動件数

(令和2年中)

事故種別 (件) 区分		火災	自然 災害	水難	交通 事故	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加害	自損 行為	急病	そ の 他				計
												転院 搬送	医師 搬送	資機 材等 輸送	その他	
曜 日 別	月	23	11	13	717	124	30	1,671	32	122	7,142	2,130	10		108	12,133
	火	24	1	10	669	140	33	1,517	24	96	6,716	1,884	14		104	11,232
	水	19	2	7	682	138	45	1,598	22	124	6,883	1,858	17		111	11,506
	木	28		14	705	97	44	1,717	23	102	6,867	1,891	10		126	11,624
	金	21		17	753	97	37	1,652	38	114	6,561	1,969	9		107	11,375
	土	16	2	17	655	115	74	1,620	43	82	6,772	1,553	13	2	139	11,103
	日	21	5	13	508	48	109	1,849	48	87	6,698	958	12		150	10,506
計		152	21	91	4,689	759	372	11,624	230	727	47,639	12,243	85	2	845	79,479
月 別	1月	13		6	402	47	29	1035	18	51	4,724	1,201	8		72	7,606
	2月	12		2	352	47	27	955	20	58	4,061	1,080	10		79	6,703
	3月	12		4	361	42	4	919	21	56	3,748	985	9		67	6,228
	4月	13		3	333	49	9	840	20	56	3,405	867	9		61	5,665
	5月	14	1	4	311	48	18	907	15	63	3,617	886	9		58	5,951
	6月	9		10	409	72	36	869	23	67	3,631	983	2		78	6,189
	7月	4	10	21	415	74	31	870	31	60	3,902	947	5	2	83	6,455
	8月	16		11	436	108	71	964	17	70	4,681	1020	6		85	7,485
	9月	12	10	8	356	85	50	1001	19	59	3,889	1072	6		86	6,653
	10月	16		7	394	68	30	1036	16	80	3,835	1058	3		41	6,584
	11月	9		6	472	57	42	1025	15	67	3,716	976	6		70	6,461
	12月	22		9	448	62	25	1203	15	40	4,430	1,168	12		65	7,499

#### 4 応急手当指導員等養成講習の状況

表16

【指導員】

区分	講習修了者数						登録を抹消した者	講習回数
	計	消防職員	消防職員の退職者	消防団員	救命士等の医療従事者	その他		
当該年中修了者	応急手当指導員講習Ⅰ	57	55	2				2
	応急手当指導員講習Ⅱ	9	1		8			9
	応急手当指導員講習Ⅲ	7			7			1
	消防長認定者	13	12	1			2	
	応急手当指導員講習Ⅰ免除者	4	4					
	計	90	72	3	15		2	12
前年中までの修了者	応急手当指導員講習Ⅰ	554	416	45	57	36	14	59
	応急手当指導員講習Ⅱ	1,216	537		678		1	429
	応急手当指導員講習Ⅲ	2	1			1	4	1
	消防長認定者	547	502	23	1	21	13	
	応急手当指導員講習Ⅰ免除者	301	300	1			19	
	計	2,620	1,756	69	736	58	50	489
合計	2,710	1,828	72	751	58	52	501	

表17

【普及員】

区分	講習修了者数						登録を抹消した者	講習回数
	計	消防職員	消防職員の退職者	消防団員	救命士等の医療従事者	その他		
当該年中修了者	応急手当普及員講習Ⅰ	55			11	2	42	7
	応急手当普及員講習Ⅱ							
	消防長認定者							
	応急手当普及員講習Ⅱ免除者							
	計	55			11	2	42	7
前年中までの修了者	応急手当普及員講習Ⅰ							57
	応急手当普及員講習Ⅱ	655	1		88	3	563	1
	消防長認定者	29		1	19		9	
	応急手当普及員講習Ⅱ免除者	23					23	
	計	707	1	1	107	3	595	58
合計	762	1	1	118	5	637	65	

## 第2 救助活動の概況

### 1 救助業務実施体制

令和3年4月1日現在、救助隊は33隊配置されており、そのうち4隊が特別救助隊で、1隊が高度救助隊である。

また、419人の救助隊員のうち42.5%にあたる178人が専任救助隊員である。

表18 救助体制

(単位：隊、人)

区分	救助隊数			救助隊員数			
	省令	専任救助隊	兼任救助隊	計	専任救助隊員	兼任救助隊員	計
消防本部							
鹿児島市消防局	3	3		3	42		42
	4	2		2	28		28
	5	1		1	14		14
枕崎市消防本部	3		1	1		10	10
	4						
	5						
出水市消防本部	3	1		1	8		8
	4						
	5						
垂水市消防本部	3		1	1		7	7
	4						
	5						
薩摩川内市消防局	3	1		1	11		11
	4	1		1	11		11
	5						
日置市消防本部	3		1	1		14	14
	4						
	5						
霧島市消防局	3		2	2	2	8	10
	4						
	5						
いちき串木野市消防本部	3		1	1		9	9
	4						
	5						
南さつま市消防本部	3	1		1		11	11
	4						
	5						
始良市消防本部	3	1		1	10		10
	4						
	5						
さつま町消防本部	3		1	1		11	11
	4						
	5						
指宿南九州消防組合	3		2	2		20	20
	4						
	5						
阿久根地区消防組合	3		1	1		34	34
	4						
	5						
伊佐湧水消防組合	3		2	2		21	21
	4						
	5						
大隅曾於地区消防組合	3	2		2	20		20
	4						
	5						
大隅肝属地区消防組合	3	1	2	3	10	34	44
	4	1		1	10		10
	5						
冲永良部与論地区広域事務組合	3		1	1		15	15
	4						
	5						
徳之島地区消防組合	3		1	1		30	30
	4						
	5						
熊毛地区消防組合	3		1	1		17	17
	4						
	5						
大島地区消防組合	3		1	1	12		12
	4						
	5						
県計	3	10	18	28	115	241	356
	4	4		4	49		49
	5	1		1	14		14

※ 省令3は省令第3条の規定による救助隊、省令4は省令第4条の規定による救助隊（特別救助隊）、省令5は省令第5条の規定による救助隊（高度救助隊）

表19 救助隊が搭乗する車両

区分	救 助	はしご車	屈折 はしご車	ポンプ車	水槽付 ポンプ車	化学車	その他	計
	工 作 車							
消防本部								
鹿児島市消防局	3							3
枕崎市消防本部	1		1					2
出水市消防本部	1	1						2
垂水市消防本部							1	1
薩摩川内市消防局	1							1
日置市消防本部	1							1
霧島市消防局	1	2			1			4
いちき串木野市 消防本部	1	1						2
南さつま市消防本部	1	1					1	3
始良市消防本部	1							1
さつま町消防本部	1							1
指宿南九州消防組合	2	1						3
阿久根地区消防組合	1						1	2
伊佐湧水消防組合	2							2
大隅曾於地区消防組合	2	1			2		2	7
大隅肝属地区消防組合	1							1
沖永良部与論地区 広域事務組合	1							1
徳之島地区消防組合	1							1
熊毛地区消防組合	1							1
大島地区消防組合	1	1						2
県 計	24	8	1		3		5	41

## 2 救助業務実施状況

令和2年中における救助業務の実施状況は、救助出動件数775件、救助活動件数506件、救助人員660人となっている。（表22）

これを前年と比較すると出動件数は12件（1.5％）の減少、活動件数は16件（3.1％）の減少、救助人員は261人（28.3％）の減少となっている。

図8 過去20年間の救助業務実施状況の推移

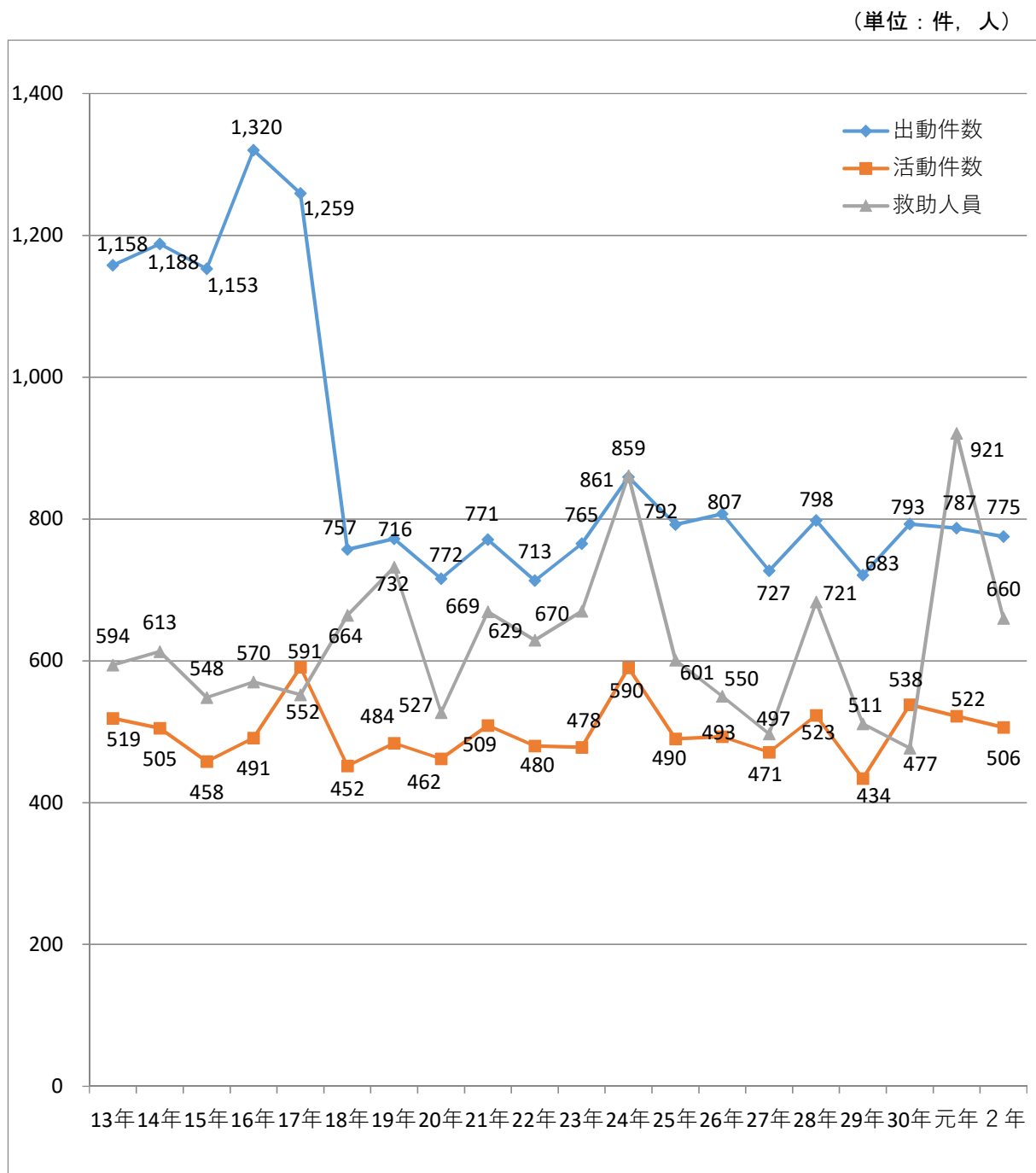




表20 事故種別出動件数及び出動人員の状況（令和2年）

（単位：件、人）

事故種別	火災	交通事故	水難事故	自然災害等	風雨災害等	機械による	建物等	ガス事故	破裂事故	その他	計
消防本部											
鹿児島市消防局	13	39	13	3	3	13	2			51	137
枕崎市消防本部		13	4							3	20
出水市消防本部		20	3		3					6	32
垂水市消防本部		8								2	10
薩摩川内市消防局	3	24	5	7	1	1				13	54
日置市消防本部		18	1				1			4	24
霧島市消防局		31	6			5	1			28	71
いちき串木野市消防本部		7	5	1						3	16
南さつま市消防本部	2	15	3			5				8	33
始良市消防本部		31	3			3				11	48
さつま町消防本部		7	2							7	16
指宿南九州消防組合	1	25	4		6	14				22	72
阿久根地区消防組合		13		1	1					5	20
伊佐湧水消防組合		4								1	5
大隅曾於地区消防組合		27	4	8	7					11	57
大隅肝属地区消防組合	3	31	3	5	4	7				9	62
沖永良部与論地区広域事務組合		9	3								12
徳之島地区消防組合		3	1							2	6
熊毛地区消防組合		9	2		1					16	28
大島地区消防組合		29	10		2					11	52
救助出動件数 計	22	363	72	25	28	48	4			213	775
救助出動人員	専任救助隊員	126	309	120		20	60	16		175	826
	兼任救助隊員	4	5								9
	消防隊員	322	198	115	14	19	57	10		198	933
	救急隊員	36	161	28		14	41	6		72	358
	消防団員										
	計	488	673	263	14	53	158	32		445	2,126

表21 事故種別活動件数及び活動人員の状況（令和2年）

（単位：件、人）

事故種別	火災	交通事故	水難事故	自然災害等	風雨災害等	機械による事故	建築物等に	ガス欠事及び	破裂事故	その他	計
消防本部											
鹿児島市消防局	13	23	10			3	9	2		47	107
枕崎市消防本部		6	3							2	11
出水市消防本部		12	3			3				3	21
垂水市消防本部		8								1	9
薩摩川内市消防局	3	16	5	7		1	1			8	41
日置市消防本部		9	1							4	14
霧島市消防局		20	4				5	1		14	44
いちき串木野市消防本部		3	3	1						1	8
南さつま市消防本部	2	10	3				3			3	21
始良市消防本部		31	3				3			11	48
さつま町消防本部		2	1							7	10
指宿南九州消防組合	1	18	2			3	9			21	54
阿久根地区消防組合		3								1	4
伊佐湧水消防組合		4								1	5
大隅曾於地区消防組合		7	4	2		6				6	25
大隅肝属地区消防組合	3	12	2	4		2	6			7	36
沖永良部与論地区広域事務組合		3	1								4
徳之島地区消防組合		3	1							2	6
熊毛地区消防組合		8				1				14	23
大島地区消防組合		7	5							3	15
救助活動件数 計	22	205	51	14		19	36	3		156	506
救助活動人員	専任救助隊員	114	91	66		4	31	16		113	435
	兼任救助隊員		5								5
	消防隊員	258	95	65		8	31	10		159	626
	救急隊員	26	65	15		6	23	3		34	172
	消防団員										
	計	398	256	146		18	85	29		306	1,238

（注）「救助活動件数」とは、救助出動件数のうち、実際に救助活動を行った件数をいう。

表22 事故種別救助人員の状況（令和2年）

（単位：人）

事故種別	火災	交通事故	水難事故	自然災害等	風雨災害等	機械による事故	建築物等	ガス欠等	破裂事故	その他の事故	計
消防本部											
鹿児島市消防局	5	34	9			3	8			44	103
枕崎市消防本部		9	3							2	14
出水市消防本部		13	3			3				3	22
垂水市消防本部		53								6	59
薩摩川内市消防局		16	9	59		1	1			8	94
日置市消防本部		10	1							4	15
霧島市消防局		24	4				6	1		13	48
いちき串木野市消防本部		5	3	1						1	10
南さつま市消防本部		11	4				2			3	20
始良市消防本部		47	3				3			11	64
さつま町消防本部		2	2							7	11
指宿南九州消防組合	3	21	7			3	9			16	59
阿久根地区消防組合		3								1	4
伊佐湧水消防組合		4								1	5
大隅曾於地区消防組合		7	4	6		6				6	29
大隅肝属地区消防組合	3	14	3	14		2	8			7	51
冲永良部与論地区広域事務組合		3	1								4
徳之島地区消防組合		6	1							2	9
熊毛地区消防組合		8				1				14	23
大島地区消防組合		8	5							3	16
救助人員 計	11	298	62	80		19	37	1		152	660

表23 救助活動のための機械器具等の保有状況（救助隊保有分）

一般 用 救 助 用 器 具	かぎ付きはしご	39	隊 員 保 護 用 器 具	耐電手袋	130
	三連はしご	29		耐電衣	60
	金属折りたたみはしご又はワイヤはしご	15		耐電ズボン	58
	空気式救助マット	15		耐電長靴	84
	救命索発射銃	28		防塵メガネ	124
	サバイバースリング又は救助用縛帯	87		携帯警報器	83
	平坦架	16		防毒マスク	65
重 量 物 排 除 用 器 具	油圧ジャッキ	32	器 除 染 具 用	化学防護服（陽圧式化学防護服を除く）	49
	油圧プレッダー	15		陽圧式化学防護服	68
	可搬ウィンチ	31		耐熱服	14
	マンホール救助器具	26		放射線防護服	77
	救助用簡易起重機	3		特殊ヘルメット	
	マット型空気ジャッキ	35		除染シャワー	3
	大型油圧プレッダー	30		除染シャワー（4口以上）	2
切 断 用 器 具	救助用支柱器具	21	水 難 救 助 用 器 具	除染剤散布器	3
	チェーンブロック	11		潜水器具	
	油圧切断機	16		救命胴衣	70
	エンジンカッター	34		水中投光器	281
	ガス溶断機	21		救命浮環	34
	チェーンソー	34		浮標	90
	鉄線カッター	50		救命ボート	17
破 壊 用 器 具	空気鋸	30	用 山 岳 救 助 器 具	船外機	22
	大型油圧切断機	25		水中スクーター	16
	空気切断機	14		水中無線機	
	コンクリート・鉄筋切断用チェーンソー	11		水中時計	8
	万能斧	81		水中テレビカメラ	27
	ハンマー	61		登山器具	1
	携帯用コンクリート破壊器具	21		バスケット型担架	13
測 定 用 器 具	削岩機	25	探索用器具	簡易画像探索機	42
	ハンマドリル	23	高 度 救 助 用 器 具	画像探索機	9
	生物剤検知器	3		地中音響探知機	10
	可燃性ガス測定器	27		熱画像直視装置	1
	有毒ガス測定器	34		夜間暗視装置	15
	酸素濃度測定器	16		電磁波探査装置	2
	放射線測定器	62		二酸化炭素探査装置	
化学剤検知器	3	水中探査装置			
呼 吸 保 護 用 器 具	空気呼吸器	214	そ の 他 の 救 助 用 器 具	地震警報器	
	空気補充用ポンベ	297		投光器	1
	酸素呼吸器	34		携帯投光器	46
	簡易呼吸器	13		携帯拡声器	49
	防塵マスク	117		携帯無線機	53
	送排風機	32		応急処置用セット	65
	エアラインマスク			車両移動器具	23
		緩降機	19		
		ロープ登降機	22		
		救助用降下機	70		
		発電機	49		

### 第3 自衛隊災害派遣による離島急患搬送

離島における医療体制の実情により、現地では治療困難な患者で、一刻も早く専門病院での手当てが必要である者に対して、昭和36年から自衛隊に対し、災害派遣要請（航空機搬送）を実施している。

搬送機関・活動範囲

海上自衛隊第1航空群 鹿屋航空分遣隊（鹿屋市）  
十島村以北

陸上自衛隊第15旅団 第15ヘリコプター隊（沖縄県那覇市）  
奄美大島以南

#### 1 自衛隊災害派遣（離島急患搬送）の状況

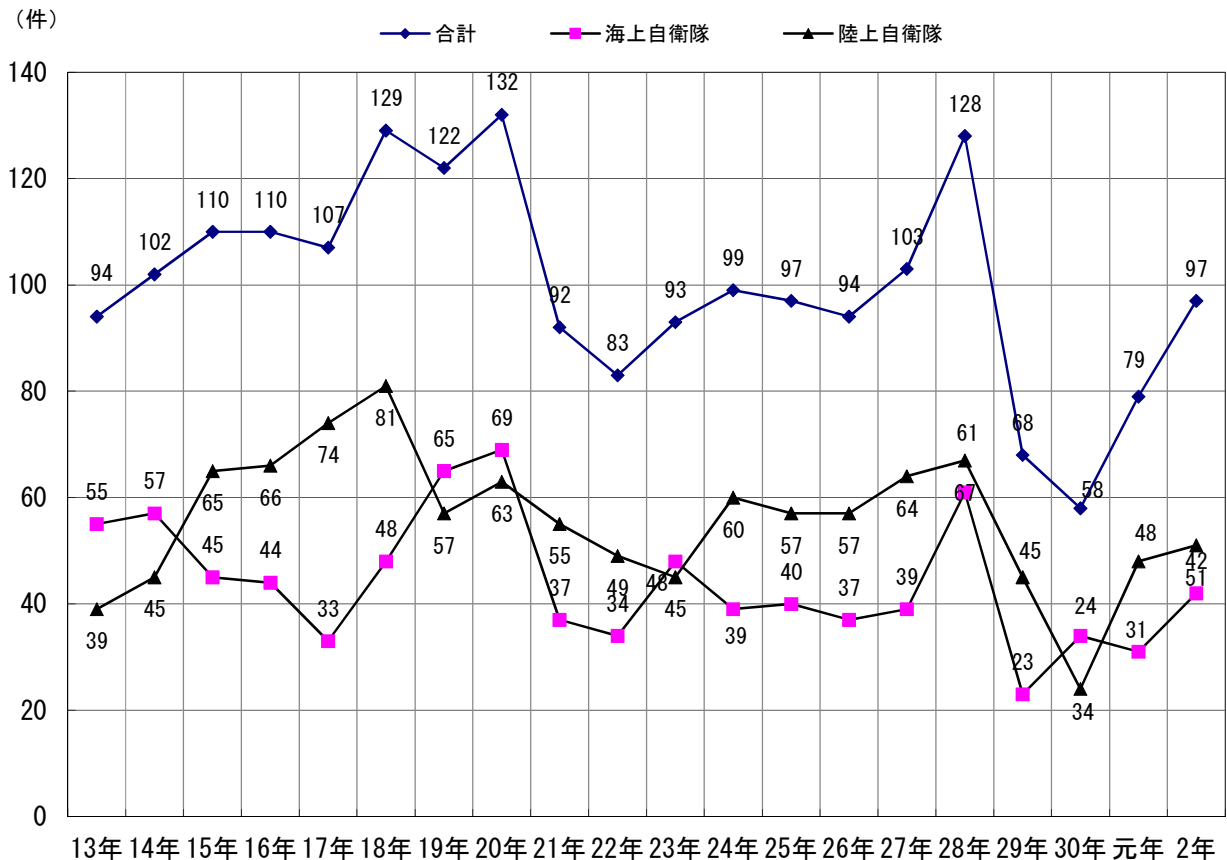
令和2年中における急患搬送出動件数は104件である。（図9）

出動件数104件を郡別にみると、大島郡（奄美市を含む）が67件（全体の66.9%）で、次に熊毛郡（西之表市を含む）が19件（同21.5%）、鹿児島郡が16件（同8.5%）となっている。（図10及び表24）

また、月別では、12月の22件が最も多く、時間帯別（派遣要請時間）では18時から20時までが21件で最も多くなっている。（表25）

令和2年中の搬送人員を傷病別にみると、内臓疾患によるものが48人（全体の46.2%）で最も多く、次に脳疾患が13人（同12.5%）となっている。（表26及び表27）

図9 過去20年間の災害派遣（急患搬送）出動件数



（注）「海上自衛隊」には、教育航空集団を、「陸上自衛隊」には南西航空混成団をそれぞれ含んでいる。

図10 過去20年間の市・郡別災害派遣（急患搬送）の出動件数（その1）

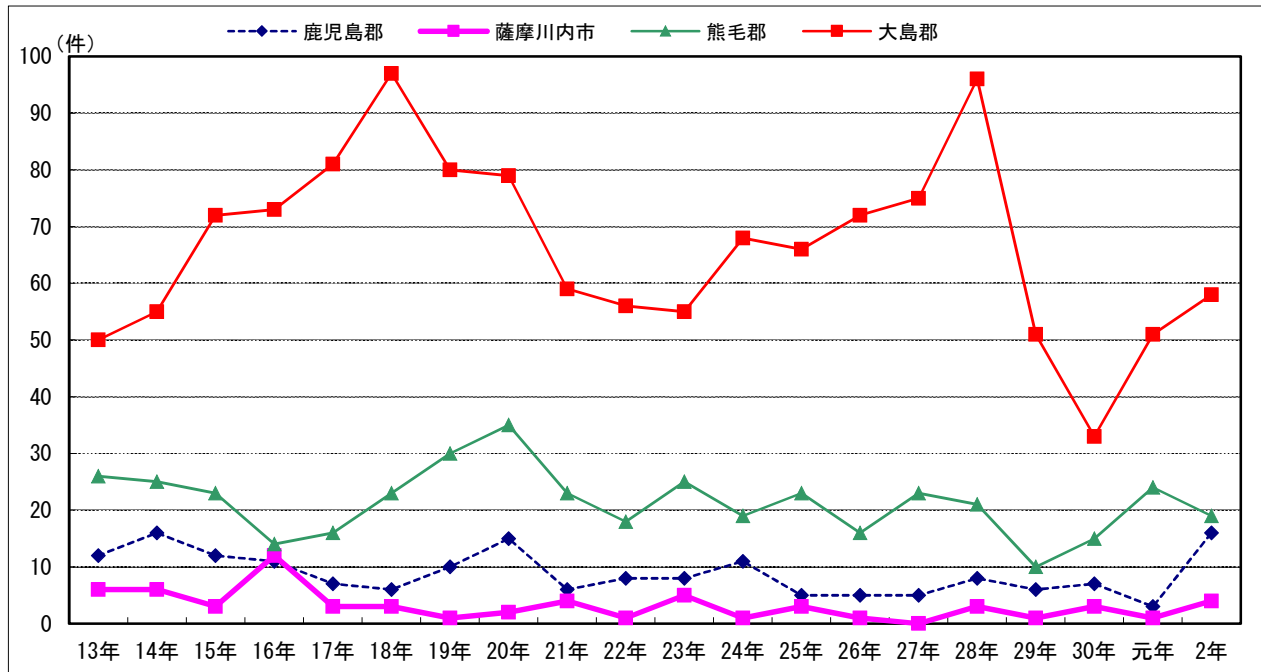


表24 過去20年間の市・郡別災害派遣（急患搬送）出動件数（その2） (年中)

年	郡別	計	鹿児島郡	薩摩川内市	熊本郡	大島郡	計のうち不搬送件数
平成 13 年		94 (39)	12	6	26	50 (39)	鹿屋2件
14		102 (45)	16	6	25	55 (45)	鹿屋2件
15		110 (65)	12	3	23	72 (65)	鹿屋2件
16		110 (66)	11	12	14	73 (66)	
17		107 (74)	7	3	16	81 (74)	
18		129 (81)	6	3	23	97 (81)	
19		121 (56)	10	1	30	80 (56)	鹿屋1件
20		131 (64)	15 (1)	2	35	79 (63)	鹿屋2件, 沖縄2件
21		92 (55)	6	4	23	59 (55)	鹿屋1件
22		83 (49)	8	1	18	56 (49)	
23		93 (44)	8	5	25	55 (44)	鹿屋1件, 沖縄2件
24		99 (61)	11 (1)	1	19	68 (60)	鹿屋1件, 沖縄1件
25		97 (57)	5	3	23	66 (57)	沖縄1件
26		94 (57)	5	1	16	72 (57)	沖縄1件
27		103 (64)	5	0	23	75 (64)	沖縄1件
28		128 (67)	8	3	21	96 (67)	
29		68 (45)	6	1	10	51 (45)	沖縄1件
30		58 (24)	7	3	15	33 (24)	
元		79 (48)	3	1	24	51 (48)	
2		97 (55)	16	4	19	58 (55)	
計		1,898 (1,061)	161 (2)	59	409	1269 (1059)	沖縄分構成比
構成比率		100.0%	8.5%	3.1%	21.5%	66.9%	(55.9%)

- (注) 1 ( ) 内は沖縄自衛隊出動件数の内書きである。  
 2 便宜上、熊本郡には西之表市、大島郡には奄美市をそれぞれ含めている。  
 3 平成20年及び24年の鹿児島郡には、各年1件ずつ、離島外からの搬送を含む。

余 白

表25 過去20年間の月別及び時間帯別災害派遣（離島急患搬送）出動件数

区分		年別	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
月別	1		8 (5)	5 (2)	5 (2)	10 (6)	9 (5)	11 (5)	8 (4)	21 (11)	12 (5)	7 (4)
	2		5 (3)	8 (5)	4 (4)	15 (10)	8 (8)	11 (8)	8 (3)	9 (4)	8 (8)	9 (7)
	3		8 (2)	8 (4)	13 (5)	10 (4)	10 (7)	9 (7)	16 (10)	15 (6)	4 (4)	3 (2)
	4		5 (2)	2 (1)	8 (5)	9 (5)	10 (7)	11 (7)	9 (6)	9 (3)	6 (4)	7 (3)
	5		6 (1)	11 (3)	11 (9)	7 (6)	11 (7)	7 (6)	4 (1)	9 (6)	9 (5)	5 (4)
	6		7 (5)	5 (4)	12 (5)	4 (3)	8 (6)	11 (5)	10 (4)	5 (3)	7 (6)	6 (4)
	7		6 (3)	13 (7)	9 (5)	7 (4)	7 (6)	11 (7)	2 (2)	7 (4)	6 (5)	5 (3)
	8		8 (2)	7 (4)	5 (3)	4 (2)	5 (5)	13 (7)	11 (6)	10 (5)	10 (5)	6 (4)
	9		10 (4)	14 (3)	8 (7)	15 (11)	8 (5)	8 (4)	7 (3)	4 (2)	8 (3)	5 (4)
	10		9 (4)	13 (5)	13 (5)	10 (7)	13 (10)	6 (5)	21 (8)	12 (4)	9 (5)	11 (1)
	11		17 (4)	8 (2)	11 (7)	11 (6)	8 (4)	17 (9)	13 (4)	18 (8)	6 (1)	10 (4)
	12		5 (4)	8 (5)	11 (8)	8 (2)	10 (4)	14 (11)	13 (6)	13 (7)	7 (4)	9 (9)
計			94 (39)	102 (45)	110 (65)	110 (66)	107 (74)	129 (81)	122 (57)	132 (63)	92 (55)	83 (49)
時間帯別	0～2		2 (1)	6	10 (6)	6 (3)	3 (3)	6 (3)	2 (1)	6 (1)	9 (3)	7 (6)
	2～4		5 (3)	9 (4)	2 (1)	2 (1)	4 (2)	3 (2)	2 (1)	4 (2)	2 (1)	3
	4～6		6 (1)	3 (1)	2	5 (4)	4 (2)	5 (3)	5 (2)	3 (2)	3 (1)	1 (1)
	6～8		2 (2)	3 (3)	3 (2)	6 (3)	10 (8)	5 (3)	7 (4)	3	2 (1)	1
	8～10		6 (4)	11 (6)	19 (16)	13 (9)	7 (5)	11 (5)	13 (4)	13 (4)	4 (2)	9 (6)
	10～12		12 (6)	12 (6)	21 (12)	21 (15)	14 (9)	21 (14)	19 (11)	12 (6)	13 (11)	9 (4)
	12～14		8 (5)	8 (4)	9 (7)	11 (6)	11 (10)	19 (13)	11 (7)	15 (11)	11 (7)	12 (6)
	14～16		8 (3)	8 (5)	6 (6)	12 (10)	8 (5)	5 (3)	10 (5)	18 (10)	9 (7)	11 (8)
	16～18		16 (4)	12 (4)	12 (6)	9 (3)	14 (9)	18 (15)	10 (3)	11 (8)	11 (5)	7 (5)
	18～20		8 (4)	16 (8)	5 (1)	11 (7)	9 (6)	13 (7)	21 (5)	11 (4)	10 (5)	5 (2)
	20～22		9 (3)	9 (4)	14 (5)	9 (3)	14 (8)	11 (8)	13 (8)	13 (5)	7 (5)	10 (6)
	22～24		12 (3)	5	7 (3)	5 (2)	9 (7)	12 (5)	9 (6)	23 (10)	11 (7)	8 (5)

(注) 1 ( )内は沖縄自衛隊出動件数の内書きである。  
 2 「時間帯」は、自衛隊への派遣要請時間である。



(年中)

23	24	25	26	27	28	29	30	元	2	計
11 (3)	3 (2)	14 (6)	6 (3)	6 (4)	17 (10)	6 (5)	5 (3)	4 (1)	5 (1)	180 (87)
4 (4)	13 (8)	1 (1)	2 (1)	10 (6)	5 (3)	2 (2)	7 (2)	7 (4)	6 (3)	143 (94)
9 (4)	5 (3)	9 (6)	10 (6)	9 (8)	11 (7)	3 (2)	4 (2)	7 (5)	7 (3)	169 (97)
5 (1)	11 (5)	7 (3)	10 (8)	6 (3)	9 (3)	6 (5)	3 (1)	3 (3)	3 (0)	139 (75)
5 (4)	5 (4)	5 (4)	5 (2)	4 (4)	8 (4)	4 (1)	5 (1)	6 (5)	4 (2)	131 (79)
8 (1)	8 (4)	8 (4)	8 (5)	3 (2)	11 (5)	2 (1)	2	7 (6)	8 (4)	140 (77)
7 (6)	9 (6)	15 (7)	7 (5)	16 (11)	15 (10)	6 (2)	5 (4)	6 (4)	11 (6)	170 (107)
6 (2)	9 (7)	2 (1)	8 (7)	9 (4)	15 (5)	10 (7)	5 (2)	7 (6)	6 (4)	156 (88)
9 (5)	7 (5)	6 (5)	6 (2)	10 (4)	10 (8)	6 (4)	5 (4)	5 (2)	8 (2)	159 (87)
10 (7)	9 (4)	10 (7)	12 (8)	11 (6)	6 (5)	8 (7)	5 (2)	9 (5)	7 (4)	204 (109)
12 (4)	11 (8)	12 (8)	9 (5)	11 (6)	11 (2)	8 (5)	7 (1)	9 (4)	10 (5)	219 (97)
7 (4)	9 (4)	8 (5)	11 (5)	8 (6)	10 (5)	7 (4)	5 (2)	9 (3)	22 (11)	194 (109)
93 (45)	99 (60)	97 (57)	94 (57)	103 (64)	128 (67)	68 (45)	58 (24)	79 (48)	97 (45)	2004 (1106)
5	8 (5)	5 (4)	8 (5)	7 (6)	11 (5)	7 (4)	3 (1)	8 (4)	9 (3)	128 (64)
5 (2)	4 (2)	6 (3)	4 (1)	7 (2)	7 (6)		4 (2)	6 (2)	5 (2)	84 (39)
1	5 (2)	2 (1)	3 (2)		8 (3)	3 (1)	3	0 (0)	5 (3)	67 (29)
1 (1)	5 (5)	3 (3)	5 (4)	2 (2)	5 (3)		2	0 (0)	3 (2)	68 (46)
9 (4)	5 (5)	3 (3)	9 (6)	5 (4)	10 (6)	1 (1)	0	2 (2)	0 (0)	150 (92)
10 (8)	9 (6)	10 (9)	6 (3)	12 (8)	16 (7)	1	0	2 (2)	3 (3)	223 (140)
6 (2)	5 (2)	14 (9)	10 (8)	10 (6)	11 (8)	1 (1)	3 (1)	2 (0)	10 (5)	187 (118)
5 (2)	7 (5)	5 (3)	6 (5)	9 (2)	8 (4)	2 (2)	1 (1)	2 (2)	11 (7)	151 (95)
11 (8)	13 (8)	14 (8)	10 (3)	17 (11)	12 (7)	9 (6)	2 (1)	15 (8)	5 (2)	228 (124)
14 (3)	15 (9)	16 (6)	13 (9)	17 (12)	25 (11)	11 (9)	19 (10)	13 (9)	16 (6)	268 (133)
20 (12)	11 (6)	10 (4)	9 (6)	11 (8)	7 (2)	23 (15)	13 (6)	17 (8)	20 (5)	250 (127)
6 (3)	12 (5)	9 (4)	11 (5)	6 (3)	8 (5)	10 (6)	8 (2)	12 (11)	10 (7)	193 (99)

表26 令和2年中の市町村別搬送人員傷病別内訳

傷病別 市町村別		合 計	交通事故		労働災害		脳疾患	頭部損傷 (一般負傷)	産科・ 婦人科	小児科	内臓疾患	その他
			頭部	その他	頭部	その他						
鹿 児 島 郡	三 島 村	4									3	1
	十 島 村	12	1				3	1			3	4
薩摩川内市		3									3	
熊 毛 郡 (西之表市含)	西之表市	2			1							1
	中種子町	2									1	1
	南種子町	1									1	
	屋久島町	14		1			1	1			7	4
大 島 郡 (奄美市含)	奄美市	11 (6)							2		6 (5)	3 (1)
	龍 郷 町											
	大 和 村	1										1
	宇 検 村											
	瀬戸内町	3 (2)									3 (2)	
	喜 界 町	9 (6)					2 (2)		1		5 (4)	1
	徳之島町	8 (8)					1 (1)				4 (4)	3 (3)
	天 城 町	5 (5)		1 (1)			2 (2)		1 (1)			1 (1)
	伊 仙 町	1 (1)					1 (1)					
	和 泊 町	10 (10)					2 (2)			2 (2)	5 (5)	1 (1)
	知 名 町	7 (7)					1 (1)			2 (2)	2 (2)	2 (2)
	与 論 町	11 (10)									5 (5)	6 (5)
計		104 (55)	1	2 (1)	1		13 (9)	2	4 (1)	4 (4)	48 (27)	29 (13)

(注1) ( )内は、沖縄自衛隊搬送人員の内書きである。

(注2) 不搬送の傷病者は含まない。

表27 過去20年間の離島急患搬送人員及び傷病別内訳

(年中)

傷病別 年別	計	交通事故		労働災害		脳疾患	頭部損傷 (一般負傷)	産科・ 婦人科	小児科	内臓疾患	その他
		頭部	その他	頭部	その他						
13	92 (39)	1 (1)	2	2 (1)	5 (1)	20 (9)	2 (2)	4 (3)	5 (2)	41 (16)	10 (4)
14	102 (46)	1 (1)	4 (3)		4 (2)	15 (5)	7 (3)	5 (4)	13 (8)	48 (18)	5 (2)
15	110 (66)	2 (1)	2 (1)		4 (1)	30 (15)	3 (1)	12 (11)	10 (9)	38 (22)	9 (5)
16	111 (66)	1 (1)	1 (1)		1	23 (11)	2 (1)	13 (8)	20 (16)	47 (28)	3
17	103 (71)		1			21 (16)	4 (2)	21 (15)	5 (5)	46 (30)	5 (3)
18	126 (79)		4 (4)	1 (1)	2 (1)	24 (9)		29 (20)	11 (7)	51 (35)	4 (2)
19	117 (55)		1 (1)		4 (2)	19 (11)		21 (11)	15 (7)	47 (20)	10 (3)
20	131 (64)	1	1		3 (1)	29 (17)	2 (1)	23 (9)	18 (11)	45 (21)	9 (4)
21	93 (56)	1 (1)	2	2 (1)	1	19 (11)		16 (10)	10 (6)	37 (25)	5 (2)
22	83 (49)	2 (1)	1 (1)			17 (9)	4 (3)	14 (7)	2 (2)	30 (18)	13 (8)
23	94 (46)		1			21 (9)	1 (1)	22 (6)		36 (23)	13 (7)
24	101 (61)	1	5 (2)			18 (10)	2 (1)	13 (5)	5 (5)	46 (32)	11 (6)
25	96 (56)	1 (1)	1		3 (2)	12 (4)		21 (13)	1 (1)	38 (25)	19 (10)
26	93 (56)	2 (1)	6 (4)		3 (3)	7 (3)		17 (10)	6 (4)	39 (21)	13 (10)
27	104 (65)	4 (3)	4 (1)	3 (1)	3	13 (10)	4 (2)	13 (8)	1	49 (33)	10 (7)
28	128 (67)	2	1 (1)		2	24 (17)	3 (1)	17 (9)	4 (2)	48 (22)	27 (15)
29	68 (45)		3 (3)			17 (11)	1 (1)	2 (1)	9 (7)	26 (17)	10 (5)
30	58 (24)			1 (1)	1	6 (4)		7 (2)	2 (1)	30 (14)	11 (2)
元	79 (48)				3 (3)	21 (9)	2 (2)	5 (4)	3 (2)	40 (24)	5 (4)
2	104 (55)	1	2 (1)	1		13 (9)	2	4 (1)	4 (4)	48 (27)	29 (13)

(注) ・本表は、鹿屋の海上自衛隊第1航空群及び沖縄の陸上自衛隊第15旅団（内書き）が搬送した人員である。  
・不搬送の傷病者は含まない。

## 第4 消防・防災ヘリコプターの活動

### 1 消防・防災ヘリコプターの導入

県では、大規模災害時における広範な消防防災活動を行うほか、急患搬送、災害危険箇所の調査点検などに幅広く活用するとともに、災害時の被害状況をよりの確かかつ迅速に把握するため、消防・防災ヘリコプター「さつま」を導入し、平成10年4月1日、運航拠点となる枕崎空港（現枕崎ヘリポート）に防災航空センターを設置するとともに枕崎市、南さつま市、指宿南九州の3消防本部から派遣された消防職員6名で編成する鹿児島県防災航空隊を発足させた。

平成30年12月19日に、経年劣化による不具合の発生を防止し、更なる安定的な運航を図ることを目的とし、新たな機材への更新を行い、令和元年5月11日から運航を開始した。

なお、令和2年4月1日から令和5年3月31日まで、熊毛地区消防組合より派遣された消防職員1名を加え、航空隊7名体制となっている。

### 2 消防・防災ヘリコプターの活動内容

消防・防災ヘリコプターは以下の活動を行うこととしている。

#### (1) 災害応急対策活動

ア 被災状況等の調査及び情報収集活動

イ 食料、衣料その他の生活必需品及び復旧資材等の救援物資、人員等の搬送

ウ 災害に関する情報、警報等の伝達等広報宣伝活動

エ その他、災害応急対策上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合

#### (2) 救急活動

ア 山村、離島等からの救急患者の搬送

イ 傷病者発生地への医師搬送及び医療機材等の搬送

ウ 高度医療機関のない地域からの傷病者の病院搬送

エ 消防・防災ヘリの積極的活用としての本土内搬送

オ その他、救急活動上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合

#### (3) 火災防御活動

ア 林野火災等における空中からの消火活動

イ 被災状況調査及び情報収集活動

ウ 消防隊員、消防資機材等の搬送

エ その他、火災防御活動上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合

#### (4) 救助活動

ア 河川、海等での水難事故、山岳遭難事故等における捜索または救助

イ 高層建築物火災における救助

ウ 山崩れ等の被害により、陸上から接近できない被災者等の救助

エ 高速道路及び自動車専用道路での事故救助

オ その他、救助活動上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合

#### (5) 広域航空消防防災応援活動

表28 消防・防災ヘリコプター「さつま」の諸元・性能

		～令和元年5月11日(旧機体)	令和元年5月11日～(新機体)
型 式		ベル式412EP型	レオナルド式AW139型
定 員		13名(増槽タンク非装着時15名)	14名(前席2名+客席12名)
最 大 全 装 備 重 量		5,398kg	7,000kg
空 虚 搭 載 量		3,820kg	4,579kg
有 効 搭 載 量		1,578kg	2,421kg
航 続 距 離		720km	1,250km
最 大 巡 航 速 度		259km/h	310km/h
限 界 高 度		6,096m	6,096m
全 長		17.1m	16.62m
全 幅		2.9m	4.22m
全 高		4.6m	4.98m
消 火 用 水 積 載 量		1,400ℓ	1,800ℓ

3 消防・防災ヘリコプターの運航状況（ベル412EP型，レオナルドAW139型）  
 令和2年中における運航件数は222件となった。  
 過去10年間の推移は下図のとおりであり，救急活動，山岳や海上での捜索，  
 救助活動などの緊急運航や各種防災訓練を行った。

図11 過去10年間の活動状況

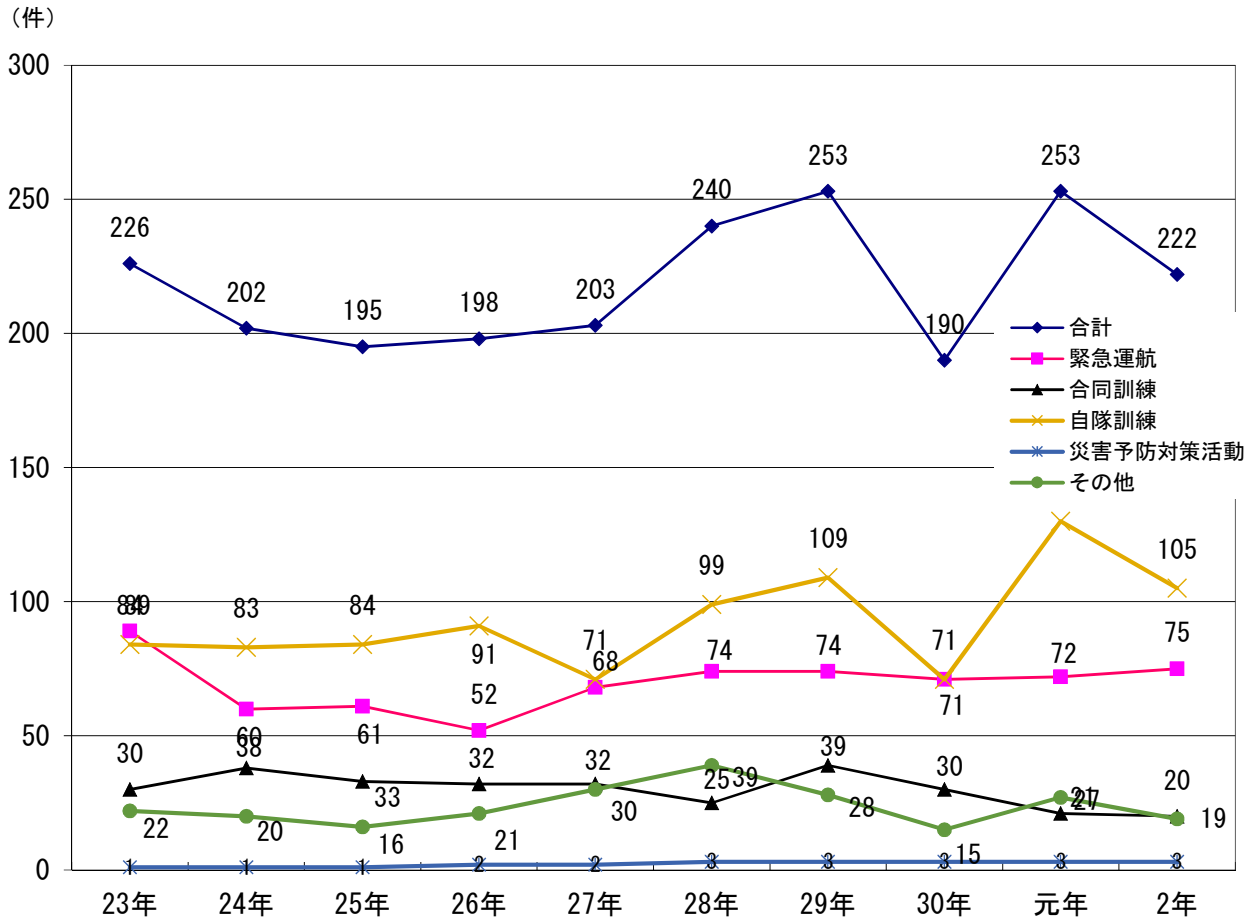


表29 消防・防災ヘリコプターの運航状況

(令和2年)

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	総計	
緊急運航	災害応急対策活動	件数								1				1	75件 87時間15分	
		時間								2:00				2:00		
	救急活動	件数			5	4	4	2	4	4	6	2	4	1		36
		時間			7:25	10:15	2:45	2:15	3:00	1:20	11:05	2:30	3:30	0:35		44:40
	火災防 御活動	件数														
		時間														
	救助活動	件数			2		2	3	4	6		2	3	1		23
		時間			3:35		1:00	4:25	4:25	3:50		2:50	2:35	0:50		23:30
	広域応援	件数			1		2	3	5	2		2				15
		時間			1:45		2:10	5:00	4:05	2:05		2:00				17:05
災害予防活動	件数					1	1		1					3	3件 7時間15分	
	時間					2:35	2:50		1:50					7:15		
合同訓練	他県広域関係	件数			1									1	21件 24時間30分	
		時間			2:10									2:10		
	県市町村関係	件数			1				2	2	3	8	4	20		
		時間			0:35				3:10	2:30	2:50	8:30	4:45	22:20		
	合同訓練 事前訓練	件数														
		時間														
自隊訓練	件数			21	16	14	10	8	9	6	6	13	1	104	104件 116時間40分	
	時間			29:55	20:30	11:05	9:40	6:25	10:30	7:25	6:40	13:25	1:05	116:40		
その他	件数		2	4				1	2	4	2	2	2	19	19件 29時間10分	
	時間		3:10	2:45				2:15	8:35	1:30	0:45	8:35	1:35	29:10		
合計	件数		2	35	20	23	19	24	26	20	22	26	5	222	222件 264時間50分	
	時間		3:10	48:10	30:45	19:35	24:10	23:20	30:40	24:50	23:15	32:50	4:05	264:50		

表30 消防・防災ヘリコプターの活動状況 (R2年中)

(1) 災害応急対策活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
1	1	9/8		十島村 (中之島・悪石島)	2:00
1件 1回 2時間00分					

(2) 救急活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	搬送人員	時 間
1	1	3/18		西之表市	1	1:05
2	1	3/25		枕崎市	2	0:25
3	1	3/25		枕崎市	1	0:25
4	1	3/25		屋久島町	1	1:15
5	1	3/30		知名町	0	4:15
6	1	4/2		知名町	0	3:55
7	1	4/3		知名町	0	3:55
8	1	4/18		南種子町	1	1:20
9	1	4/27		屋久島町	1	1:05
10	1	5/1		南さつま市	1	0:15
11	1	5/22		屋久島町	1	1:20
12	1	5/28		西之表市	1	0:55
13	1	5/29		南さつま市	1	0:15
14	1	6/5		西之表市	1	1:05
15	1	6/19		西之表市	1	1:10
16	1	7/6		三島村 (黒島)	1	0:50
17	1	7/6		三島村 (黒島)	1	0:40
18	1	7/6		大崎町	4	0:30
19	1	7/17		西之表市	1	1:00
20	1	8/1		指宿市	1	0:15
21	1	8/9		指宿市	2	0:10
22	1	8/19		霧島市	1	0:25
23	1	8/24		霧島市	1	0:30
24	1	9/4		徳之島町	1	1:50
25	1	9/4		徳之島町	2	2:20
26	1	9/5		西之表市	1	1:20
27	1	9/9		屋久島町	2	1:15
28	1	9/10		十島村 (悪石島)	1	2:10
29	1	9/28		鹿児島市	1	2:10
30	1	10/1		鹿児島市	1	1:30
31	1	10/7		西之表市	1	1:00
32	1	11/14		南大隅町	1	0:25
33	1	11/14		霧島市	1	0:25
34	1	11/18		霧島市	1	0:25
35	1	11/25		薩摩川内市	1	2:15
36	1	12/1		屋久島町	1	0:35
36件 36回 44時間40分						

(3) 火災防御活動状況  
実績なし

## (4) 救助活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
1	1	3/23		志布志市(水難捜索)	1:55
2	1	3/24		志布志市(水難捜索)	1:40
3	1	5/1		南さつま市(山岳救助)	0:25
4	1	5/29		南さつま市(水難救助)	0:35
5	1	6/7		出水市(山岳捜索)	1:45
6	1	6/7		出水市(山岳捜索)	1:20
7	1	6/8		南さつま市(水難捜索)	1:20
8	1	7/6		南さつま市(山岳捜索)	1:10
9	1	7/6		大崎町(豪雨救助)	1:00
10	1	7/7		大崎町(豪雨救助)	1:00
11	1	7/7		大崎町(豪雨救助)	1:15
12	1	8/1		指宿市(山岳救助)	0:30
13	1	8/9		指宿市(山岳救助)	0:25
14	1	8/9		指宿市(山岳救助)	0:20
15	1	8/10		さつま町(水難捜索)	1:15
16	1	8/19		霧島市(山岳救助)	0:45
17	1	8/24		霧島市(山岳救助)	0:35
18	1	10/5		屋久島町(山岳救助)	1:50
19	1	10/21		屋久島町(山岳救助)	1:00
20	1	11/14		南大隅町(山岳救助)	0:55
21	1	11/14		霧島市(山岳救助)	0:55
22	1	11/18		霧島市(山岳救助)	0:45
23	1	12/1		屋久島町(山岳救助)	0:50
23件 23回 23時間30分					



## (5) 広域航空消防防災応援活動

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
1	1	3/24		宮崎県(火災防御)	1:45
2	1	5/7		宮崎県(火災防御)	1:10
3	1	5/11		熊本県(救急)	1:00
4	1	6/2		宮崎県(救急)	2:50
5	1	6/8		宮崎県(救助)	1:25
6	1	6/8		宮崎県(救急)	0:45
7	1	7/4		熊本県(情報収集)	1:20
8	1	7/4		熊本県(救助)	0:40
9	1	7/4		熊本県(救急)	0:30
10	1	7/4		熊本県(救助)	0:40
11	1	7/4		熊本県(救急)	0:55
12	1	8/2		宮崎県(救助)	1:30
13	1	8/2		宮崎県(救急)	0:35
14	1	10/26		宮崎県(救助)	1:25
15	1	10/26		宮崎県(救急)	0:35
15件 15回 17時間05分					

## (6) 各種防災訓練等への参加等

件数	回数	月 日	訓練内容	訓練名及び実施場所	時 間
1	1	3月17日	救急資器材、機体展示	鹿児島県消防学校第26期救急科教育訓練	0:35
2	1	3/21	山岳地形調査	相互応援協定合同訓練	2:10
3	1	7/21	隊員投入・災害想定訓練	南さつま市消防本部連携訓練	1:20
4	1	7/29	隊員投入・災害想定訓練	鹿児島市消防局 高度救助隊連携訓練	1:50
5	1	8/5	隊員投入	阿久根地区消防組合連携訓練	1:30
6	1	8/30	航空担架救助	日置市総合防災訓練	1:00
7	1	9/15	隊員投入・エバック誘導無し救助・ドロップタンク消火訓練	薩摩川内市消防局救助救出・火災防ぎょ訓練	1:00
8	1	9/18	エバック誘導無し救助	始良市消防本部救助救出訓練	1:10
9	1	9/18	隊員投入・エバック誘導無し救助	鹿児島市消防局(西署)救助救出訓練	0:40
10	1	10/1	隊員投入訓練	枕崎市消防本部連携訓練	1:15
11	1	10/7	航空担架救助	鹿児島市消防局(南署)救助救出訓練	0:50
12	1	10/13	航空担架救助	霧島市消防局(西署)救助救出訓練	1:30
13	1	10/15	ドロップタンク消火訓練	指宿南九州消防組合火災防ぎょ訓練	0:40
14	1	10/20	ドロップタンク消火訓練	伊佐湧水消防組合火災防ぎょ訓練	1:00
15	1	10/20	情報収集訓練	鹿児島県石油コンビナート等総合防災訓練(喜入地区)	0:25
16	1	10/21	隊員投入・航空担架救助	さつま町消防本部救助救出訓練	1:30
17	1	10/30	隊員投入・各種救助訓練	鹿児島県消防学校第25期救助科教育訓練	1:20
18	1	11/10	航空担架救助	垂水市消防本部救助救出訓練	1:30
19	1	11/15	隊員投入・エバック誘導無し救助	鹿児島市消防局(中央署)救助救出訓練	1:00
20	1	11/19	航空担架救助	いちき串木野市消防本部救助救出訓練	1:10
21	1	11/25	隊員投入・エバック誘導無し救助	大隅曾於地区消防組合救助救出訓練	1:05
21件 21回 24時間30分					

余 白